

大麦管理情報 (第2号)

令和6年11月15日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

平均気温は、平年に比べ、10月が19.3℃（平年差+2.3℃）とかなり高く、11月上旬が14.2℃（同+1.0℃）と並であった（図1）。

(2) 降水量

降水量は、平年に比べ、10月が209.0mm（平年比122%）、11月上旬が115.5mm（同183%）と多かった（図2）。

(3) 全天日射量

全天日射量は、平年に比べ、10月が10.2MJ/m²/日（平年比97%）と並、11月上旬が10.2MJ/m²/日（同123%）と多かった。

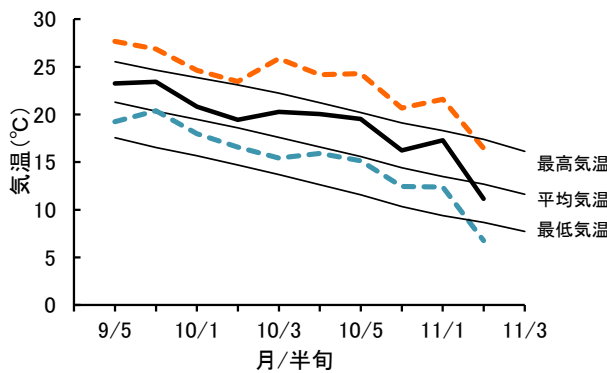


図1 気温の推移 (富山地方気象台)

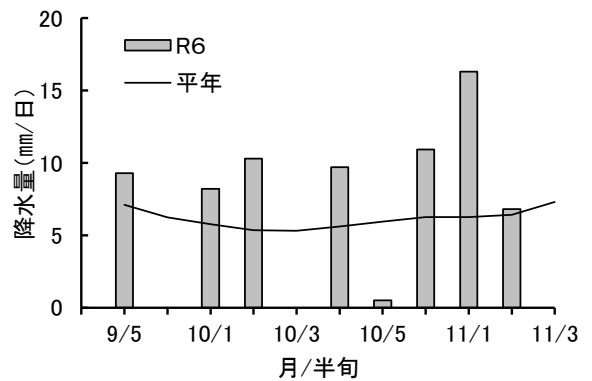


図2 降水量の推移 (富山地方気象台)

2 生育概況

- ・平年に比べ、草丈はかなり長く（平年比127%）、茎数は並（平年比95%）、葉齢は1.0葉進んでおり、葉色（SPAD）は急激に低下し、かなり淡く（平年差-7.7）なっている（表1、図3・4）。
- ・草丈が過去15年で最も長い等、軟弱傾向となっている。

表1 大麦の生育状況 (11月14日)

	播種期 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
				(本/株)	(本/m ²)		
7年産	10/2	164	33.2	3.0	512	6.1	32.1
6年産	10/7	167	29.1	3.1	528	5.4	37.9
平年	10/6	175	26.1	3.1	537	5.1	39.8

注) 調査ほ場数：10、播種様式はすべてドリル播き、平年はH27～R6年産の平均

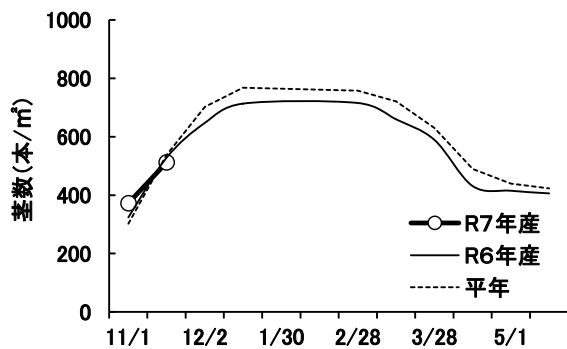


図3 茎数の推移

注) 平年はH27～R6年産の平均

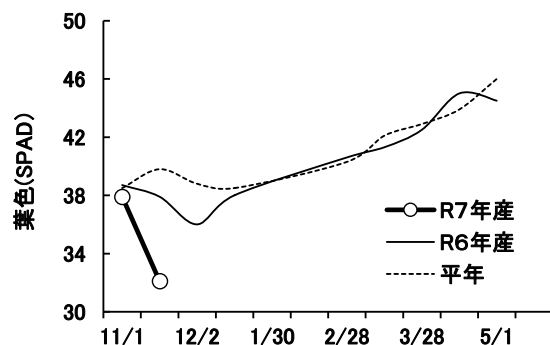


図4 葉色の推移

注) 平年はH27～R6年産の平均

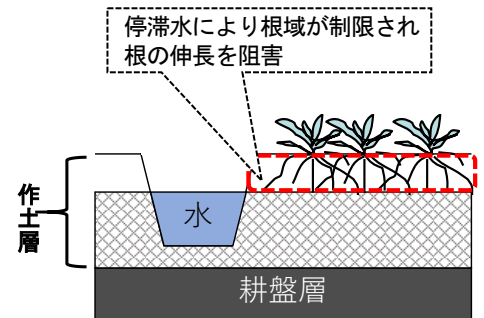
3 当面の技術対策

(1) 排水対策の徹底

越冬前に目標茎数（600～800本/m²）を確保するため、ほ場の排水状況の点検を行い、ほ場内に水が停滞しないように、排水溝の手直しを行うとともに深く掘り下げた排水口の連結を徹底する。

【排水不良のほ場】

溝に水がたまっている



排水溝の高い部分や埋まりを削り、排水口へ連結する



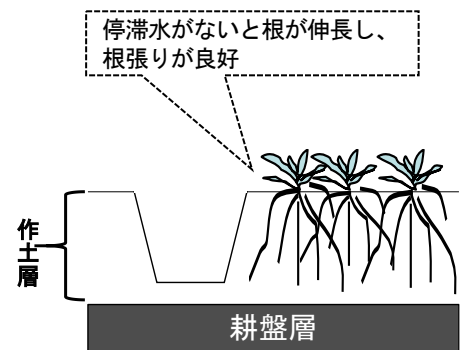
排水口へ



排水口

【排水良好のほ場】

ほ場内に停滞水がない



(2) 年内追肥

【肥効調節型体系】

葉色（SPAD）は淡いが、草丈がかなり長く、軟弱傾向であることから、原則年内追肥は実施しない。

【分施肥体系】

- ・ 基肥窒素は、播種後1か月頃になると大麦の吸収や溶脱により土壌中の残存量が少なくなるため、追肥は播種後1か月頃に、窒素成分で10a当たり4kgを目安に施用し、茎数を確保する。
- ・ 年内追肥は原則として、播種後1か月頃の1回のみとするが、12月初めの生育が茎数500本/m²以下で、かつ、葉色がSPAD値で30以下のほ場では、窒素成分で10a当たり2kg以内の追肥を施用する。